

新年を迎えて

代表取締役社長 野澤 俊太郎



新年あけましておめでとうございます。

ケミカルタイムズの読者の皆様並びにご執筆の先生方におかれましては、さぞかし良いお正月を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年来、政府の景気月例報告において、輸出が拡大に転じたこともあり、5月に「底入れ宣言」を表明するほどになり、その後「持ちなおし」の動きから、一転して9月には「環境は厳しさを増している」と景気判断を下方修正されるなど、景気の先行きに予断を許さないところとなりました。日銀による銀行保有株の買い取り、政府によるペイオフ2年延期、金融再生プログラム策定での不良債権処理、税制改正等を含めた景気対策にも拘わらず、依然として、「物価は下がる」という傾向で、一向に景気回復の兆しが見られないまま推移しているのが、日本経済の状況であります。また、師走の東京は11年ぶりの初雪に見舞われ、一面に銀世界が広がり、自然環境の厳しさがこの景気回復にブレーキをかけるのではないかと懸念しております。

そのような中での明るい出来事として、6月に日韓共同開催の「ワールドカップ2002」が行われ、サッカー旋風が沸き起こり、全国民が興奮と感動を味わいました。さらに、日本人研究者がノーベル賞を物理と化学の両部門で受賞し、化学では3年連続受賞という快挙に、国民全体がその喜びを大いに祝福すると同時に、次世代を担う若い研究者の方々に、夢と希望をもたらしただのと考えます。そして、弊社は研究用試薬メーカーとして、それらの受賞の见えないところで研究者の役にたってきたものと自負しているところであります。

昨今の化学業界を取り巻く環境は、規制緩和に伴う自主管理を取り入れる等の企業における責任が増大しており、これらの社会的責任を全うするための社内体制の確立が強く求められております。

弊社では、環境・安全の管理について、試薬業界初で全工場がISO14001の認証を1998年に取得し、さらに弊社独自の総合安全管理体制を構築し、「設計開発から廃棄に至るすべての段階における化学物質の安全管理」を徹底しています。また、PRTR法によるMSDSの提供や排出データの初年度届出にも取り組み、皆様方が製品を安全にご使用いただくとともに、環境負荷を低減する地球環境保全や化学物質の悪用防止のための施策を積極的に推進しております。品質の管理につきましても、他社にさきがけ、試薬メーカーとして最初に品質保証システムISO9001の認証を1994年に取得し、さらに、新しく改訂されました2000年版品質マネジメントシステムの移行も2002年9月に全工場が完了いたしました。また、分析データの信頼性確保のために、ISO/IEC17025試験所認定制度の認定を2000年に取得しております。さらに、昨年3月に完成し順調に稼動しております環境・食品関連試薬の「溶剤専用工場」に加えて、診断用用途を中心に食品・環境分野も含めた微生物検査試薬の「生培地工場」が本年3月に完成いたします。

弊社の理念であります「社会に対して積極的に貢献すること」を念頭に、これらのシステムと新工場設備を駆使し、新製品の開発ならびに技術開発の強化に努め、平成15年度経営方針を達成すべく、全社員が一丸となって取り組んでいく所存です。

また、ご愛読いただいております「THE CHEMICAL TIMES」は、本号(187号)より表紙デザインならびにサイズを変更し、装いを新たにいたしました。今後とも、尚一層のご愛顧、ご鞭撻をお願い申し上げます。

皆様方におかれましては、この1年が光輝に満ちた幸多い年でありますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。